



“わが社の安全マインドづくり”

3月14日(月)、浜松中央地区平成27年度安全運転管理推進事業所の

「本田技研工業株式会社 トランスミッション製造部」

を浜松中央地区協会の西塚事務局長とともに訪れました。

取材には、同社の宮路雅晶トランスミッション製造部長、松井快行総括安全衛生管理者代理(安全運転管理者)、有高芳章安全衛生ブロックリーダー及び、安全衛生ブロックの武田昌彦主任の4名の皆様が応じてくださり、同社の業務概要とともに、1年間の推進事業所活動の取り組みについてお話しいただきました。



まず、宮路部長から

「モビリティカンパニー」として、社員に対する交通安全教育の徹底を図るとともに、地域への貢献を含めた社会的責任を果たしていく。

という基本的活動方針をお聞きしました。

続いて、松井安全運転管理者から

「当社の社有車は67台ですが、従業員の通勤車両は二輪車を含め約2,800台であり、その全てを“通勤車両管理システム”で一括管理しています。」

との説明と合わせ、社の「交通安全基本理念」

- 「心」 思いやりの心、マナー
- 「技」 危険予測の技
- 「態」 模範となる態度

を紹介していただきました。

【現在まで実施した主な推進事業所活動】

- 「安全運転管理推進事業所指定交付式」(4/27)と、「所内キックオフ」(5/22)
 - ゴールデンウィーク、夏期及び年末年始の連休前における「交通安全呼び掛け」
 - 毎月1回「交通教育センター レインボー浜名湖」における「安全運転実技研修(二輪・四輪)の実施
(個々の運転スキルの認識と、安全運転の意識づけ→気づきを与え交通事故防止に繋げる)
 - 動画KYT=小集団でのディスカッションを行い、自らの運転に反映させる
 - 「とっさの判断！運転テクニック上達 ヒヤリハット安全運転研修会」
 - 通勤車両駐車場パトロール
 - 契約ライダー宮城 光氏による交通安全講演会
「もうやめよう！恐怖の通勤レース」
- など、多種多様な活動

【事業所独自の主な安全活動】

- 「安全運転普及本部」「レインボー浜名湖」「トランスミッション製造部」の3者が一体となり、また連動しての総合的交通安全活動
- 社内設置の「交通安全教育センター」を活用しての地域交通安全啓蒙活動(CRT〈カソード・レイ・チューブ〉による運転適性診断とドライビングシミュレーターによる危険予知訓練)
- 行政と連携した「ホンダ夏祭り」(創業以来継続)における地域住民への交通安全活動の実施

死角の確認ゾーン



CRT 運転適性診断



ドライビングシミュレーター



まとめとして、松井管理者から

現在まで、あらゆる機会を通じて“地道な活動”を継続しています。

そのため、社員一人ひとりの安全運転意識は根付いているものと確信していますが、今後も更に一つ一つの活動を積み重ねていくことが大切だと思います。

すべての人の安全を目指して、地域と連携した取り組みを展開していきたいと考えています。との抱負をお聞きしました。



フロアー展示の「ホンダスーパーカブC100」（昭和35年製）と

「ホンダドリームCB750P」（昭和45年製）

詳細記事は「安全運転管理しずおか」5月号に掲載

今回の取材でお聞きした安全運転管理の諸対策・諸活動の詳細につきましては、機関誌「安全運転管理しずおか」5月号の誌面にて掲載する予定でありますのでお待ち下さい。